

第3回 小塚山公園拡充予定地の整備を考える会

平成 28 年 12 月 14 日

| | | |
|-------|--------------------------|----|
| 1. | 基本設計案 | 2 |
| 2. | 各部についての意見交換 | 3 |
| 2.1 | 水の導入／（谷津田の）原風景の再生 | 3 |
| 2.1.1 | 水の扱いについての基本方針と原風景の再生のあり方 | 3 |
| 2.1.2 | 体験施設の考え方 | 3 |
| 2.1.3 | 池（水源）と水路の配置・デザイン等 | 4 |
| 2.2 | 主要施設配置と動線 | 5 |
| 2.2.1 | 主要施設配置 | 5 |
| 2.2.2 | バリアフリールートの設定 | 6 |
| 2.3 | エコブリッジ周辺の構成 | 7 |
| 2.4 | 広場空間について／防災空間・災害時の活用 | 8 |
| 2.5 | 植栽 | 9 |
| 2.5.1 | 植栽ゾーニング | 9 |
| 2.5.2 | 使用樹種のイメージ | 10 |

2. 各部についての意見交換

2.1 水の導入／（谷津田の）原風景の再生

2.1.1 水の扱いについての基本方針と原風景の再生のあり方

- 谷津田の原風景再生を基本に考え、用水路と水田のイメージにつながる水路と湿地を軸に多様な生き物が生息できる自然な風景づくりを目指す（水質の問題もあり、ジャジャブ池のような施設整備は行わない）。

・【上流】敷地北西側半分はやや上流の雰囲気として、水辺に平坦な広がりを持たず、ゆったりとした広場は道路沿いの「高台」に確保する。「水源」付近は既存移植木も活用して疎林を配する。

・【中下流】南東側半分は中下流の里地の雰囲気として、水辺にゆったりとした広がりを持たせ、水田としての運用も可能な湿性花園、斜面部には畑地をイメージさせる参加型菜園等を配置する。



谷戸の視線の抜け

畔・水路・湿地のイメージ



2.1.2 体験施設の考え方

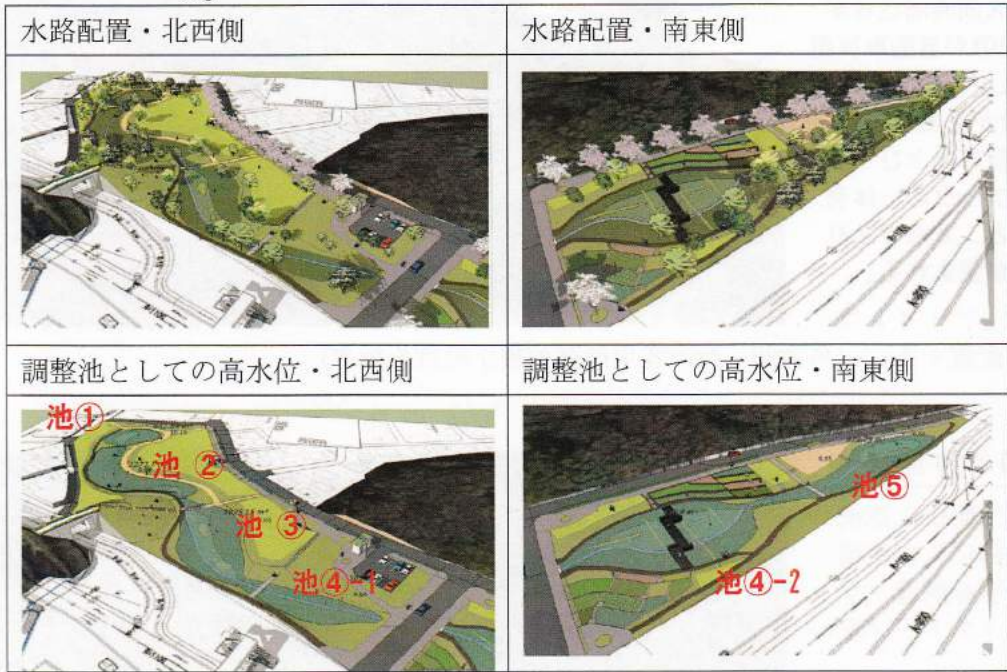
- 将来的に担い手ができるようにであれば水田ができる区域を残しておく（当面は湿生植物園、池として整備）
- 特別な施設を用意するのではなく、原風景をイメージさせる景観の中で、その場の地形や草木を活用して自由に遊べる空間を用意する。（木登り等を許容する利用ルール設定を検討）

【論点】

- 水田（湿性花園）・畑地（参加型菜園・花壇）のイメージについて
- ・・・維持管理運営の課題等

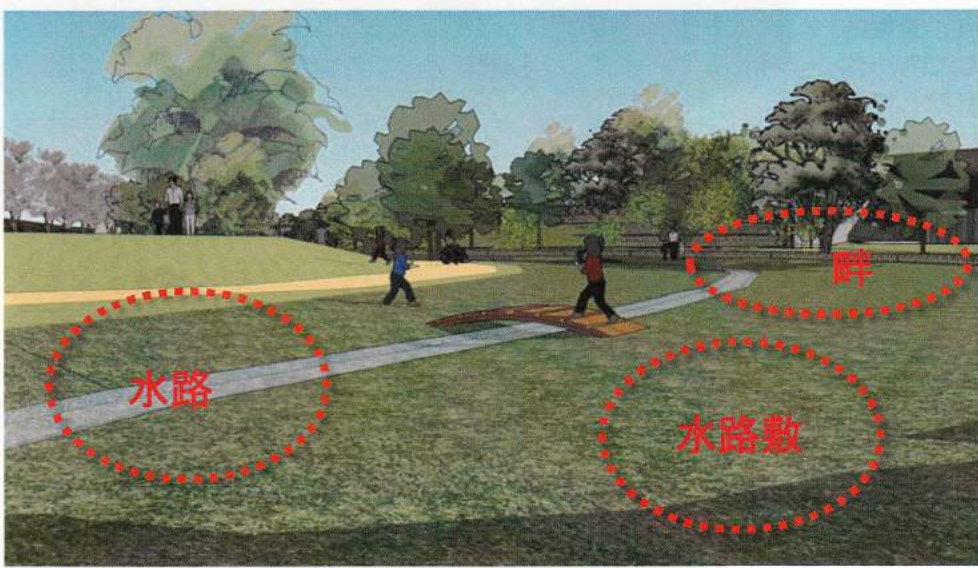
2.1.3 池（水源）と水路の配置・デザイン等

- ・ 「水源」となる池を敷地北西端付近に配置し、水路は敷地内の水を集水して調整池（雨水の流出抑制）機能を果たしながら、敷地全体を縦貫する形態を取る。
- ・ 現在把握している湧水量によって形成可能な水路は、幅1mで水深2~3cm程度の「浅いせせらぎ」程度となる。
- ・ 調整池機能を確保するために、敷地をいくつか分割して流下量を調整する。これによって、やや水位の高い（水量が多く見える）部分と数か所の池や湿地（湿性植物園）を形成する。蚊の発生を考慮して、滞水部分は、できるだけ住宅街から離すとともに、緩やかに水が動くよう留意する。



【論点】

- ・ 調整池機能を果たす「水路敷き」の形状・素材等について意見交換する。
- ・ ①（草地の）緩やかな斜面
- ・ ②底は碎石敷き等、エッジは石積み
- ・ 「水路敷き」の安全管理の考え方



2.2 主要施設配置と動線

2.2.1 主要施設配置

(1) 駐車場の規模・配置／トイレの配置

- ・ 最小限の駐車場（8台分）を敷地中央部に確保する。
 - 有効利用園地面積（敷地の半分の約1ha）に対して、快適な公園利用者数（20㎡/人）を想定すると最大同時滞在者が500人、その10%が自動車利用とすれば50人で、3人/台の同乗で約16台が必要となる。小塚山公園既設部およびフィールドアスレチックの一体利用を考慮すると、本来はより多くの駐車場が望まれる。
- ・ 維持管理面も考慮し、トイレは駐車場に隣接して配置する。（男女別、身障者用付帯の最小規模を想定）



(2) 堀之内貝塚公園との連携

- ・ 隣接する公園として明快に連携するように、接点部に入口広場を配置し、相互の視線誘導（ゲート状の植栽・アイストップ配置等）を工夫する。
- ・ 緑の回廊として繋がり、景観的にも生物生息空間としても一体の空間となることを目指して、既存林構成種と同様の樹種活用を基本に植栽設計を進める。



(3) その他施設

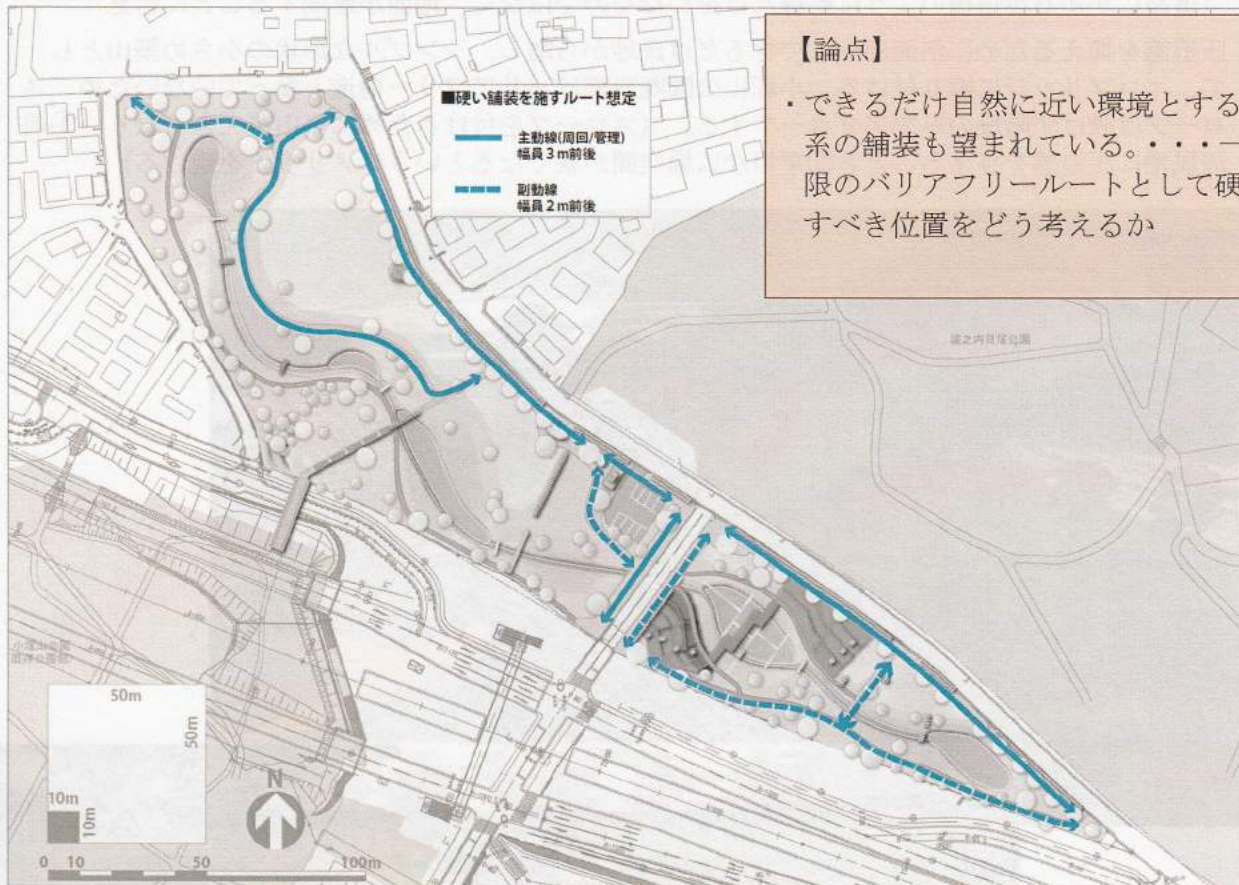
- ・ 研修等の施設については、本計画地には設置しない。
 - 自然観察等を主目的とした公園ではないため、観察舎や展示施設等は設置しない。また、交流ができる集会・倉庫機能を持った施設が欲しい。といった要望については、既存施設での対応をお願いしたい。

【論点】

- ・ 配置（進入動線）と規模の確認
- ・ トイレ配置・・・道路・駐車場との関係／堀之内貝塚公園との連携
- ・ プレハブの防災倉庫、管理用具置き場等・・・住民による維持管理への参加に向けた留意点

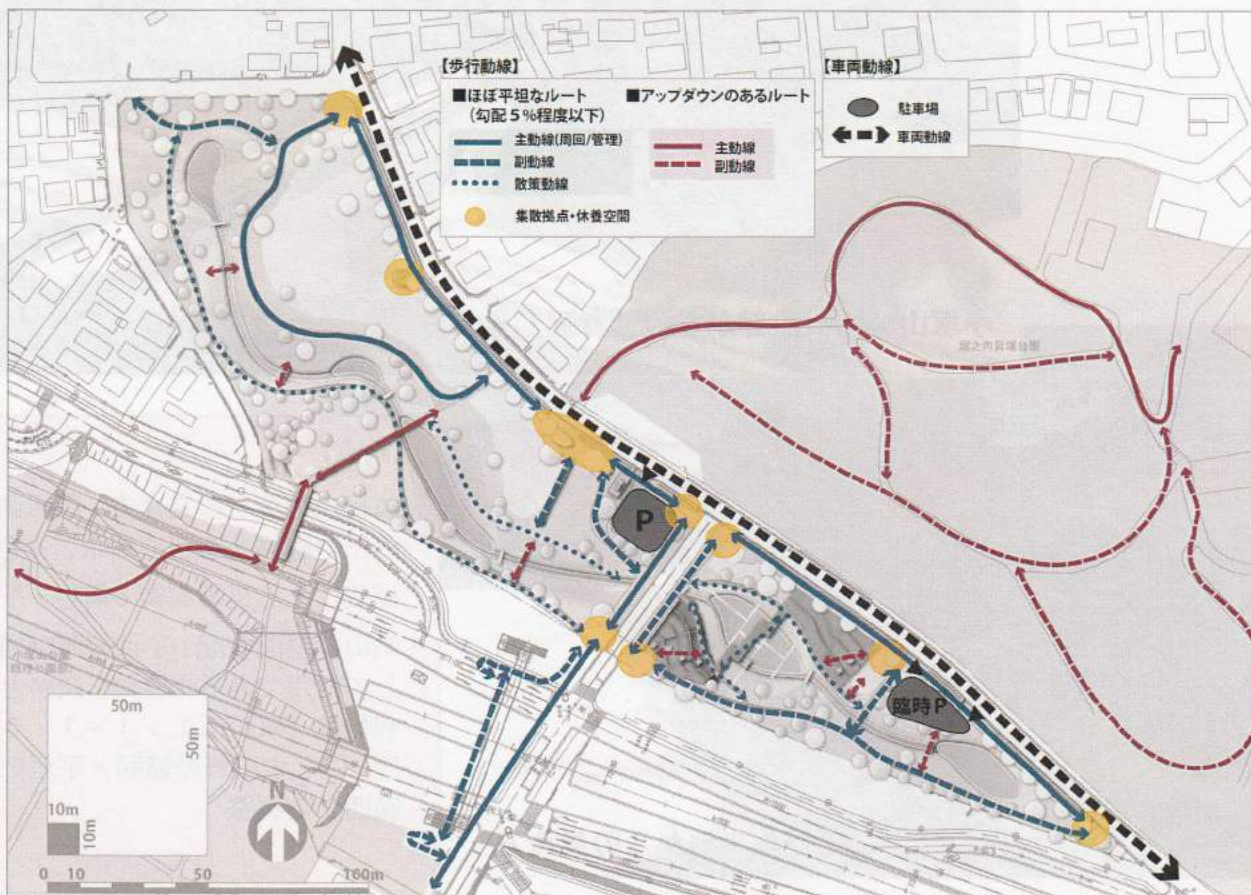
2.2.2 バリアフリールートの設定

- ・ 園内施設はバリアフリー対応を基本とする。
- ・ 園路幅員と勾配を車いす対応として、硬い舗装を施すバリアフリールートとして、図の位置を想定する。



【論点】

・ できるだけ自然に近い環境とするために「土」系の舗装も望まれている。・・・一方で、最低限のバリアフリールートとして硬い舗装を施すべき位置をどう考えるか



2.3 エコブリッジ周辺の構成

- ・ 小塚山公園既設部と本検討区域を一体の公園として活用するために、何らかの形で最低限の連結動線確保が求められる。この意味でエコブリッジは存続する。
- ・ 小動物の移動経路としての機能を考慮して橋詰空間は自然素材が連続することが必要である。（道路にかかる歩道橋のように動線だけをつなぐのではなく、地面が連続することに留意）
- ・ 圧迫感を抑えるために斜面部分ではできるだけ民地から離し、シンプルな形状の小さめ築山として、エコブリッジに擦り付ける。小塚山公園既設部はバリアフリー構造となっていないため、スロープは設けず階段のみでアプローチする。（スロープを付けるために築山が大きくなり、①周辺民地に圧迫感を与えることと②平坦な広場空間が狭くなるというデメリットを避ける）



エコブリッジへの階段と
築山・斜面の形状



小塚山公園既設部からの「背面」見え方



隣接住宅地からの見え方

【論点】

- ・ 隣接民地からの見え方：民地側への圧迫感抑える造形状、高さ。
- ・ 植栽による視線制御：樹種・配置
- ・ 築山の斜面勾配：子供の遊び場として活用できるように、傾斜と植栽配置（傾斜は1：4～1：5程度）・・・すそ野の範囲と平坦部の範囲との調整

2.4 広場空間について／防災空間・災害時の活用

- ・ 地域のイベントで活用できる広場を確保する。北西側敷地で約 3,000 m²
- ・ 災害時の一時避難場所、復旧・復興時の支援拠点として機能する広場と、ゆったりとした入口空間を確保する。
- ・ 民地隣接部（木造戸建てに接する位置）の植栽については、延焼遮断機能を考慮する。
- ・ かまどベンチ等の導入は検討する。
- ・ 防災倉庫については、プレハブの設置を想定する。



【論点】

- ・ 災害時の活用に向けて、広場の規模・形状と付帯施設について意見交換：【発災直後】一時集合場所、【発災後数日】避難空間・物資配布等の支援空間、【復興期】仮設住宅用地としての活用等
- ・ 広場活用のルールやマナーについての意見交換
- ・ (広場の形状・規模については2.におなじ)
- ・ 南東側敷地の道路沿いに多目的広場空間を設定(将来の利用形態に併せて変化可能なりザーブ用地/当面は大規模イベント時等の臨時駐車場として活用する等)について